

## 令和五年度 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 卒業証書授与式 校長式辞

暖かな春の訪れを感じさせるこの佳き日に、国や県、双葉郡八町村を始め、たくさんのご来賓の皆様のご臨席を賜り、保護者の方々と在校生が見守る中、令和五年度の卒業証書授与式を挙げていくことは、真に喜ばしい限りであり、皆様に深く感謝いたします。

ただ今、呼名されました中学校五十九名、高等学校一一四名の生徒諸君、卒業おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、今日まで陰に陽に支えてこられた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

中学三年生は海外研修やスポーツ活動を行った後に、そして、高校三年生は本日限りで卒業となります。卒業生全員が気持ちに区切りをつけ、四月からの新しい生活に向けた決意を確かなものとするため、卒業式というこの厳粛な場において、今一度ふたば未来学園での日々を思い起こしてみてください。

君たちが入学した二〇二一年は、新型コロナウイルスの感染対策の切り札であるワクチン接種が開始され、夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催された年でした。コロナ禍に明るい兆しが見える一方、感染力の強い変異株の流行もあり、入学式はマスク着用、規模縮小、三密を避けて行われ、その後の学校生活でも文化祭である双来祭が中止となるなど、まだまだ厳しい状況が続いていました。その後、医療機関や行政機関の皆様のご尽力により、徐々に感染対策が緩和され、君たちが二年生の時には、双来祭が制限付きで開催でき、運動会や球技大会は静岡県で学ぶJFAアカデミー福島の生徒と一緒に行いました。高校の修学旅行は予定どおり沖縄方面で実施でき、三島長陵校舎の富士急ハイランドへの遠足が復活し、中学校では開校初の東京グローバル・ゲートウェイ研修を行い、加えて海外での研修や遠征も再開しました。そして、三年生になり、新型コロナウイルス感染症が五類に移行してからは、通常の学校生活に戻り、探究活動では商品開発やボランティアなど地域との連携が盛んになり、部活動では大会やコンクールで活躍し、中には全国中学校大会やインターハイ、アジア大会や世界大会で優勝する生徒もいました。これら三年生の取組は、建学の精神「変革者たれ」に相応しく、本校の新たな歴史となりました。

しかし、この三年間は順調なことばかりではなかったはずです。自粛生活で人とのコミュニケーションがとりにくく友人関係で悩んだり、学習活動や部活動が思いどおりにできず将来に不安を感じたり、今思い起こすと辛い時期もあったことでしょう。そのような中、中学三年生は思春期の多感な時期を迎え、様々な経験をとおして自分を見つめ自立心を高めてきており、周囲を思いやる様子が随所に見られ、高校進学後の更なる飛躍を予感させてくれています。また、高校三年生は生徒どうしの仲が良く、去年の高校野球選手権大会では、開校初となる全校応援を行い、系列や部活動の枠を越えて互いに応援し合う、新しい文化を築いてくれました。辛い経験をすると優しくなれるという、アメリカの詩人ホイットマンの「寒さに震えた者ほど太陽を暖かく感じる。人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る」という言葉のように、君たちは無自覚のうちにも

人として大きく成長しているのです。

ここで、一つのエピソードをご紹介します。先月十七日、宇宙航空研究開発機構 J A X A と民間企業が協働し、日本の新たな大型主力ロケット「H3」の二号機打ち上げに成功しました。二〇一四年の開発開始から十年後の打ち上げ成功に担当者は「エンジニアは失敗するともものすごく強くなる」とこれまでの苦労を振り返り、「将来へのバトンが繋がった」と喜びを口にしました。一年前に初号機打ち上げを失敗した時、人的被害がなかったこともあり、約七ヶ月かけて原因を究明し、残りの期間で万全の対策を講じたそうです。失敗の経験を成功に繋げる「トライ・アンド・エラー」を繰り返し、幾多の試練を乗り越えて成功に漕ぎ着けたこの挑戦は、諦めないことや安全性を重視することの大切さを伝える教訓となって、先人から次の世代へと受け継がれていくことでしょう。

今、世界はたくさんの課題に溢れています。自然災害や紛争により尊い命が失われ、辛く悲しい思いをしている人がたくさんいます。この地域には未だ道半ばの復興や長く続く廃炉作業、住民が安心して暮らせる街づくりに向け懸命に働く人がたくさんいます。これからの社会を生きる君たちには、ぜひ課題に向き合い、自分の強みと本校での学びを生かして、価値観や文化の違いの中で、対立や分断を乗り越え、人々が幸せに暮らせる社会の創り手になってほしいと思っています。戦争と原爆投下の悲劇を経験した日本に住み、東日本大震災と原発事故のあったこの地域で暮らし、現在休校中の五つの高校とそのサテライト校で学んだ先輩たちの伝統を受け継いだ君たちには、たくさんの方々のご支援で開校した本校で学んだ者として、周囲への「感謝」の気持ちを大切にし、主体的に課題の解決に「挑戦」してもらいたい。先人たちの熱い思いを受け継いで、周囲への優しさと失敗を恐れない勇気を持って、自分自身の幸せとともに、人々が平和に暮らせる社会を築いてほしいと心から願っています。

保護者の皆様に申し上げます。本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのないお子様の教育に、私たち教職員を信じてご協力いただき、ありがとうございました。そして、卒業生諸君、君たちの卒業は、勿論、君たち一人一人の努力の賜物ではありますが、同時に温かい愛情を持って励まし、支えてこられたご家族や多くの人のお陰でもあります。この旅立ちの門出において、お世話になった方々への「感謝」の気持ちを言葉で伝え、しっかりとけじめをつけて、中学校卒業生は気持ちを新たに高校生活で、そして、高校卒業生は就職や進学という新しいステージで、夢や希望の実現に向け更なる「挑戦」を続けてほしいと思います。

結びに、ふたば未来学園は、来月、創立十年目の節目を迎えます。卒業生諸君が築いた伝統と今後の活躍は、母校の歴史に刻まれ後輩たちに受け継がれていくことでしょう。無限の可能性を持って本校を巣立つ、卒業生全員のこれからの人生に幸多からんことを願うとともに、本日ご参会の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈りして、式辞といたします。

令和六年三月一日

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 校長 郡司 完